

気になるフィオーレ喜連川人 Vol. 23

その瞬間の感動をとじこめて ～四季の魅力の伝道師



2丁目 荒井科威子

自然の中を散歩して季節の花々を楽しむ。その途中、見事な花の咲きぶりに遭遇できた時、思わずそれを摘んで帰る。ところが花は数日後にはしおれてしまふ。押し花は一番美しい花の姿を立体から平面に形を変え長く楽しめる技法である。写真と違い好きな花同士を組み合わせ、絵画のように仕上げられるのも特徴だ。荒井科威子さんは、フィオーレで押し花教室を開いている。とても楽しく和気あいあいとやっています。教室では色んなアイデアも生まれるから勉強になります。(押し花で白川郷の景色を描いた)ある時、キウイフルーツのへたを持ってきた生徒さんがいて、それが白川郷のぐし(屋根の頂点部分や屋根と屋根が交わる部分)にすごく良かったんです。教室は月1回だが、普段から押し花中心に過ごすことが多い。料理に使った大根やゴボウの皮も作品のためにとっておきます。本当はゴボウは皮をむかない方が美味しいんですけど(笑)「散歩中に花を見つけたら採取する。時には欲しい素材を求めてわざわざ遠方まで足を伸ばす

こともある。庭には押し花に使うため、わざわざ育てている花もあり、その中から作品になった花を見せてくれた。「月下美人という花で、その名の通り夜遅く咲いて朝には萎んじゃいます。夜十時頃まで花が咲くのを待つ、摘んですぐ押し花にしました。」大輪で繊細ながらも主張が強い美しい花で、その艶やかさは見る者の心を奪う。咲き頃が短い花を扱う押し花は、いかに手早く水分を抜けるかが重要。水分の含有量はその植物によって異なり、月下美人などは分解して押さなければ水分があるので手間がかかり、植物のことを知っていないと到底できない。「ただ長くやっているだけ」と謙遜するが、押し花は熟練の技術が必要で、多くの植物に何度も向き合っただけならば身に付かない。実際作品には多くの花が登場する。中には雑草もあり、作品の中でも存在感を放っている。どこかで見かけてもだれも見向きもしないような植物も押し花の手にかかるひとつの作品として生まれ

変わり感動を与える。めぐる季節の中で誰にも気づかれずにこんなにも多くの生命が咲き誇り、芽吹いているのだと気がかされる。また押し花は、感動したその瞬間を気持ちごととじこめる。荒井さんの作品からは、花の美しさはさることながら、花を見て「ああーきれいー」と素直に感じたその心まで伝わってくる。それを感じているのか、小学生のお孫さんも遊びに来ると押し花の作品を作って帰っていくそうだ。最初は自分ひとりだけの感動が、押し花を通して多くの人に届く。今年で14回目を数える押し花展も今年200名以上が訪れる作品展にまで成長した。「押し花を長くやってこられたのもフィオーレという環境と、何より押し花を通じて仲間が存在があったからです。」たくさんの自然と仲間と囲まれ、押し花の創作活動に協力的なご主人の支えもあって生まれきた数々の作品。花や植物の持つ力が荒井さんの手によって引き出され作品として生まれ変わった時、また誰かの心を豊かにするのだらう。

記事：大河原千晶

写真で振り返る📷 熱戦 体育祭!!

立ち上がれ女子! 百足リレー

オレンジのジャンパー、目立つ!

各区分抗総合リレー

男子、去年に続いてリレー2連覇!
女子は健闘も4位。

全然入りません(笑)

今年初の試み
豚汁の炊き出し。

応援席

多くの人が駆けつけてくれました。
選手・応援者合わせてなんと185名!

参加賞

今年初の試み、
出場者には競技
毎に景品プレゼント!
くじを引き、
レース後に景品
を貰える。中には
オータニ商品券
500円分も!

pick up 障害物競走リレー 障害物競争天下分け目の逆転劇

アンカー、最後の直線。トップを追うフィオーレにビッグチャンス!

でも届かないか...

まさかの2回目!!笑

いけー!!

大逆転!!

皆さん、お疲れさまでした!
来年もよろしく!